

## 会場からの質問①

活動支援の資金問題もあるかとおもいますが、居場所を運営する運営者や後継者の問題も大きな課題だと考えています。皆さんの仲間や後を継いでくださる方、実際に活動して支援者となる人を増やしていくためには、どのような取り組みが必要で、どんな課題があるのか教えていただければと思います。



不登校などのサポートをする中で、子どもだけでなく親御さんの話も聞くことがあります。そうすると、子どもがある程度元気になると、親御さんが支援者側に回ってくださるケースが多くあります。また、当初、居場所に来ていた子どもたちが大学生になり、ボランティアとしてサポートしてくれることもあります。彼らは当事者としての経験を語り、当時の感情を親御さんに伝えることで、親御さんが家にいる子どもの気持ちを理解しやすくなる場合も多いです。このように、内側から支援者が生まれており、地域でも同じようなことが起きるのではないかと考えています。



一般社団法人蜜柑の木  
永峰さま



ぼくらのアカデミー  
綿谷さま

思いに共感してくださる方が、子どもたちの遊び場を一緒に作りたいと集まってくださっています。ただ、ボランティアだと続かないため、お金を支払い、有償でアルバイトとして来てもらっています。ですので、純粋に気持ちだけでやっている方はいないとまではいいませんが、気持ちももちろんありつつ、報酬もお支払いしている形です。増やしていく方法は、声かけて「こういう活動をしている」と伝え、徐々に広がっている状況です。私自身もスタッフも声をかけており、これからさらに広がっていくと思います。

「他地域にも広げてほしい」と声をいただきますが、地域との関係性が薄れてしまうため、担い手を育て、それぞれの地域で活動を展開していくのが理想だと考えています。実際、ここでアルバイトしていた若者がNPOを立ち上げたり、研修に職員を派遣したりと、少しずつ育成の環境も整ってきました。ただ、研修費や交通費など自己負担も多く、支援があるとありがたいです。「なぜボランティアが集まるのか？」とよく聞かれますが、ボランティアも地域福祉の一部です。滋賀県のボランティア募集サイトは情報が古く、利用しづらいのが現状です。うちは有料の企業サイトで募集をかけていますが、年間1万円程度の費用でも効果があります。団体がこういった方法を取れるようになればいいですし、滋賀県のボランティア募集サイト自体を、企業と連携して今風に改善する必要があると感じています。今のままではネット時代に合っておらず、もったいないとは思っています。



特定非営利活動法人  
こどもソーシャルワークセンター  
幸重さま

## 会場からの質問②

- 1つ目：「お金さえあれば今の取り組みを安定的に継続できるモデルになっているのか？」  
2つ目：「困難を抱える子どもが今後どれくらい出てくるか」という予測やデータについて県や市とそういった情報を共有できているのか気になっています。



子どもの貧困率や若者のひきこもりに関するデータなどテーマごとに統計的なデータはある程度出ていると思います。ただし、ひきこもりについては、そもそも表に出てこないケースも多く、正確な把握が難しいという課題があったり、いわゆる「ヤングケアラー（家族のケアを担う若者）」の数も、把握しにくいのが現実です。虐待などで福祉的支援の「対応側」のデータはある程度整備されているかとは思いますが、これらの課題はしばしば重なり合っており、単純に分けて数値化することが難しいというのが実情です。学校や福祉の現場では、「何かに引っかかる」子ども・若者は全体の1割ほどという印象があります。そのうち、一時的な支援で前に進める子もいれば、継続的なサポートが必要な子が2~3%程度残る、という感覚です。あくまで現場の実感値ではありますが、そもそも「数値の取り方」や「健康」という概念自体の捉え方もバラバラであるため、正確な数字を示すことは簡単ではありません。



特定非営利活動法人  
こどもソーシャルワークセンター  
幸重さま



ぼくらのアカデミー  
綿谷さま

愛荘町には全国でも数少ない、午前中5時間授業・1コマ30分短縮というモデル校があり、来年度からは2校追加で同様の短縮授業が導入され、放課後の時間が今よりも大きく広がります。一方で共働き世帯は増えており、今後県内にも広がっていく流れがあることから放課後に子どもたちを地域で見守る必要性は確実に高まっています。私の居場所モデルは、週2回、スタッフ2名を雇用し、経費込みで年間約200万円程度で運営できます（事務局費は除く）。ボランティアベースでの運営を目指しており、地域にニーズがあるので安定的な継続は十分可能だと思います。ただし、その実現には地域とつながる「ハブ」としてのコーディネーターが必要で、いない場合はたとえ資金があっても継続は難しい場合があると思います。

学校に通っている子どもたちの状況も大きく変わってきています。以前はお迎えが17時~17時半だったのが、今は18時~19時が当たり前になり、お父さんが迎えに来るケースも増えています。困難を抱えている子供だけでなく、みんなしんどい状況で、子どもたちは宿題に追われ、余白のない毎日。ゲーム漬けで、横のつながりも薄くなっています。この先、彼らが社会を支えていくと考えると、子どもの数が減る中で今の状態のままでは非常に厳しいと感じます。そんな思いから、私たちも小さな活動を続けています。



一般社団法人蜜柑の木  
永峰さま